

早稲田商学第 468 号
2024 年 6 月

消 息

伊藤嘉博先生のご定年退職にあたって

伊藤嘉博先生はめでたく古稀を迎えられ、早稲田大学の定めにしたがって、本年 3 月末日をもって退職され、名誉教授の称号が贈呈されました。先生のご退職にあたり、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

伊藤先生は 1953 年神奈川県にお生まれになり、1978 年 3 月学習院大学経済学部をご卒業ののち、横浜市立大学大学院経営学研究科修士課程へと進学され、1981 年 4 月には早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程に進まれました。

1984 年 4 月城西大学経済学部専任講師として嘱任され、以来 40 年間大学教員としての道を歩まれました。1988 年 4 月には成蹊大学経済学部助教授、1994 年 4 月同教授と昇任され、2000 年 4 月上智大学経済学部教授、2002 年神戸大学大学院経営学研究科教授に転じられ、2005 年 4 月早稲田大学商学学術院教授として嘱任されました。早稲田においては 19 年にわたって教育と研究の時間を過ごされました。

先生は、管理会計の研究において多くの業績を残されました。単著として『品質コストマネジメント—品質と原価管理の融合—』（中央経済社、1999 年）、『管理会計のパスpekティブ』（上智大学出版会、2001 年）、『コストマネジメント入門』（日本経済新聞社、2001 年）、『品質コストマネジメントシステムの構築と戦略的運用』（日科技連出版社、2005 年）を挙げることができます。このうち『管理会計のパスpekティブ』は、早稲田大学に提出された学位請求論文をもとにしたものであり、2000 年 2 月に博士（商学）の学位を取得されています。これらの他に共著 4 点、編著・共編著 6 点に加えて多数の論文を執筆されるなど、旺盛な研究生を送られてきました。2015 年から 2018 年に掛けて日本会計研究学会理事、日本管理会計学会では 2000 年以降理事、常務理事、副会長、日本原価計算研究学会では 1999 年以降理事、常任理事、監事をお務めになり、学界において指導的な立場に立たれました。先生の学識や知見は、大学評価・学位授与機構経済学系教育調査委員（2002 年から 2004 年）、公認会計士試験委員（2008 年から 2010 年）

としても活かされました。伊藤先生の教育・研究上の功績について詳細は長谷川恵一先生による消息をご参照ください。

他方、学内においては、恩藏直人学部長のもとで学生担当教務主任（2008年9月から2010年9月まで）をお務めになり、学生生活の向上に貢献されました。先生の教務主任在任時は、学生のトラブル案件が殊の外多く、それまでの学生運動が沈静化する一方で、われわれが学生の心的部分に起因する問題に直面しつつある時期で、学生担当副主任であった山田茂先生とともに学生との面談にあたるなど、ご苦労が多かったものと推察します。先生は厳しいながらも慈愛の心に満ちた方であり、学生担当教務主任は打ってつけでした。当時、教務担当教務副主任は井上達彦先生、入試担当教務主任は守口剛先生、教務担当教務主任は私でしたが、年長の伊藤先生はまとめ役と同時に場を和ませてくださる役割を担っていました。会食ともなれば率先して美味しい店を予約してくださるなど、懐かしい思い出ばかりです。その後、藤田誠学部長のもとで教務担当教務主任（2018年9月から2020年9月）をお務めになり、英語によるゼミを含む Global Management Program (GMP) の創設など学部教育の国際化にも寄与されました。

先生の個人的な部分にも触れることにします。先生はイタリアのミラノ郊外にあるパヴィア大学で在外研究の時間を過ごされました。イタリアはお洒落な先生にとってぴったりの研究先であったと思います。また、先生は幅広い知識をお持ちの方ですが、学部学生時代、その後、学習院長になられ、博識高いことで知られた田島義博先生のもとで学ばれたこともその背景にあるのではないかと推察します。

本年2月3日、先生は「管理会計一次の100年を展望する―」と題する最終講義をされました。先生が長年担当された「管理会計論」は多数の学生が受講するほどの人気の授業でしたが、当日は、奥様をはじめとするご家族、早稲田のみならず他大学を含むゼミ出身者、先生が大学院時代に所属された故青木茂男先生のゼミ関係者を中心に200名に及ぶ出席者があり大盛況でした。これは、先生のお人柄を映し出したものであり、教員として学生一人一人との関係、研究者として先輩の先生方との関係をともに大切にされてこられた結果ということができましよう。とくに、長年の研究生生活を支えてこられた奥様やご家族に謝意を示され、その場面は感動的でありました。最終講義後には懇親会も開催され、出席者が旧交を温める機会となり、ゼミのOB・OGと有意義な時間を過ごされたのではないかと考えております。

先生には管理会計の次なる 100 年の一翼を担っていただくべく、これからの研究はさらに深化するものと思われます。古稀とは思えないほど若々しい先生ですが、今後ともご健康に留意され、お元気に過ごされることを祈念いたします。先生の早稲田大学とりわけ商学部に対する多大なご貢献に心から感謝を申し上げます。

伊藤先生、長きにわたり、ありがとうございました。

早稲田大学商学部長
早稲田商学同攻会長
横山 将義